

枢密院會議筆記  
 昭和十六年十二月八日

一 米國及英國ニ對スル宣戰ノ布告ノ件

国立公文書館

利用上の注意

枢密院會議筆記及び同委員会録は、非公開の席上における発言を記録したものであります。したがって当該発言者の共同著作物と解されますので、引用等発表に際し著作権法上の問題の生ずることのないよう特に御配慮願います。

国立公文書館

分類	
配架番号	2 A 15-10 ⑧ D 876

樞密院會議筆記

一 米國及英國ニ對スル宣戰ノ布告ノ件

昭和十六年十二月八日(月曜日)午前十時五十分

開議

聖上臨御

出席員

原議長

鈴木副議長

大臣

東條内閣総理大臣 五番

橋田文部大臣 六番

井野農林大臣 七番

小泉厚生大臣 八番

岩村司法大臣 九番

嶋田海軍大臣 十番

東郷外務大臣 十一番

寺島遞信大臣 十二番

賀屋大藏大臣 十三番

岸 商工大臣 十四番

八田鐵道大臣 十五番

顧問官

石井顧問官 十八番

有馬顧問官 十九番

窪田顧問官 二十番

石塚顧問官 廿一番

清水顧問官 廿二番

南 顧問官 廿三番

奈良顧問官 廿四番

荒木顧問官 廿五番

松井顧問官 廿六番

菅原顧問官 廿七番

松浦顧問官 卅八番

潮 顧問官 卅九番

林 顧問官 三十番

深井顧問官 卅一番

二上顧問官 卅二番

真野顧問官 卅三番

大島顧問官 卅四番

小幡顧問官 卅五番

竹越顧問官 卅六番

三土顧問官 卅七番

伊澤顧問官 卅八番

池田顧問官 卅九番

關席員

親王

雍仁親王 一番

宣仁親王 二番

崇仁親王 三番

載仁親王 四番

顧問官

金子顧問官 十七番

委員

鈴木企畫院總裁

星野内閣書記官長

森山法制局長官

谷 情報局總裁

山本外務省東亞局長

阪本外務省歐亞局長

松本外務省條約局長

武藤陸軍中將

岡 海軍少將

報告員

鈴木審査委員長

書記官長

堀江書記官長

書記官

諸橋書記官

高辻書記官

議長(原)

之ヨリ會議ヲ開ク

米國及英國ニ對スル宣戰ノ布告ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シ  
テ直ニ審査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員(鈴木)

今回御諮詢ノ米國及英國ニ對ス

ル宣戰ノ布告ノ件ニ付本日本官等出席員全  
員審査委員タルノ命ヲ承ケ即時委員會ヲ開  
キ事案ノ極メテ關要ナルヲ念ヒテ具ニ當局  
大臣及關係諸官ノ辯明ヲ聽キ慎重之ガ查覈  
ヲ遂ゲタリ尚本件ハ事緊急ニ屬シ審査報告



書ヲ發スルノ違アラザリシニ由リ御諒承ヲ  
請フ  
内閣總理大臣ノ説明ニ依レバ東亞ノ安定ヲ  
確保シ世界ノ平和ニ貢獻スルハ帝國不動ノ  
國是ナリ而シテ列國トノ友誼ヲ篤ウシ此ノ  
國是ノ完遂ヲ圖ルハ是レ亦帝國國交ノ要義  
トスル所ナリ然ルニ曩ニ中華民國政府ハ帝  
國ノ真意ヲ解セズ徒ラニ外力ヲ恃ミテ事ヲ  
構ヘ遂ニ支那事變ノ發生ヲ見ルニ至レリ其  
ノ後國民政府ノ更新ヲ見ルヤ帝國ハ之ト善

隣友好ノ誼ヲ結び相提携シテ事變ノ解決ニ  
當リツツアルモ重慶ニ殘存スル蔣政權ハ米  
英兩國ヲ恃ミテ今尚無益ノ抗戰ヲ續ケ米英  
兩國亦蔣政權ヲ援助シテ事變解決ヲ妨害シ  
東亞ノ禍亂ヲ増大シツツアルノミナラズ更  
ニ進テ帝國ノ周邊ニ軍備ヲ増強シ又逐次經  
濟上ノ壓迫ヲ加重シ遂ニ帝國ニ對シ經濟斷  
交ノ暴擧ヲモ敢テスルニ至レリ然レドモ帝  
國ハ極力外交交渉ヲ以テ平和裡ニ之ガ解決  
ヲ圖ラントシハ箇月ノ久シキニ互リ米國ト



ノ間ニ屢次折衝ヲ重ネタルモ同國ハ徒ラニ  
時局ノ解決ヲ遷延セシメ此ノ間却テ英國其  
ノ他之ニ附和スル諸邦ト聯合シテ經濟上及  
軍事上ノ脅威ヲ増大シ徒ラニ架空ノ原則ヲ  
弄シテ我方ノ一方的讓歩ヲ強要シ帝國ヲ屈  
從セシメントスルノ態度ニ出テ終ニ今日ニ  
迄ベリスクテ若シ帝國ニシテ彼ニ屈從セシ  
カ帝國ノ常ニ平和ヲ念トシ東亞安定ノ爲ニ  
盡シ來レル積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸スル  
ノミナラズ帝國ノ權威ハ地ニ墜キ終ニハ帝

國ノ生存ヲモ危殆ニ瀕セシムルノ虞ナシト  
セズ茲ニ於テカ帝國ニ執リテハ國力上ノ見  
地ヨリスルモ又作戰上ノ觀點ヨリスルモ到  
底此ノ儘推移スルヲ許サザルノ状態ニ立至  
リ且特ニ作戰上ノ要求ハ之レ以上時日ノ遷  
延ヲ許サズ速カニ軍事行動ヲ起スノ寔ニ已  
ムヲ得ザルニ至レリ而シテ 聖斷既ニ下リ  
帝國ハ米英蘭ノ諸國ト戰端ヲ開クコトト爲  
レリ仍テ此ノ際帝國政府ハ即時米國及英國  
ニ對スル宣戰ヲ布告スル旨ノ本措置案ヲ立

テ之ヲ以テ本院ノ詢議ニ付セラレシコトヲ  
奏請シタルモノナリ  
按ズルニ支那事變ヲ完遂シ東亞ノ安定ヲ圖  
ルハ現下帝國ノ重大方針タリ而シテ帝國ハ  
一意眷々平和ヲ顧念シ極力温健ノ手段ヲ以  
テ之ガ解決ニ努力シ蔣政權ヲ援助スル米英  
其ノ他ノ諸國ト長期ニ互リ折衝ヲ重ネタル  
ガ彼等ハ其ノ富强ヲ恃ミ意滿チ氣驕リ徒ラ  
ニ架空ノ原則ヲ固執シテ敢テ譲ラズ帝國ノ  
主張ハ總テ排斥セララル所ト爲レリ斯クテ

帝國ニ於テハ前來幾多ノ努力ハ全ク水泡ニ  
歸シ平和的手段ハ遂ニ其ノ效ヲ奏セズ帝國  
ノ威信及自存ノ爲茲ニ干戈ヲ以テ之ガ解決  
ヲ求ムルノ眞ニ已ムナキニ至レルヲ以テ米  
國及英國ニ對シ宣戰ヲ布告スルノ本案措置  
ヲ執ラントスルモノニシテ現下ノ事態ニ鑑  
ミ寔ニ已ムヲ得ザルモノト認ムルノ外ナシ  
仍テ本官等ハ本案ハ此儘可決セラレ然ルベ  
キ旨全會一致ヲ以テ議決シタリ  
右審査ノ結果ヲ報告ス

議長(原) 別ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ省  
略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ起  
立ヲ請フ

(全員起立)

議長(原) 全會一致可決セラレタリ

本日ハ之ニテ閉會ス

聖上入御

(午前十一時閉會)

議長 原 嘉道

書記官長 堀江 季雄

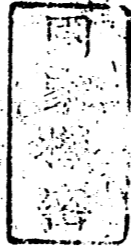
書記官

諸橋 襄

高辻 正巳



参考



詔書案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐ル大

日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆

ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ

陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戦ニ從事シ朕カ

百僚有司ハ勸精職務ヲ奉行シ朕カ眾庶ハ



各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力  
ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカ  
ラムコトヲ期セヨ

抑、東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ  
寄與スルハ丕顯ナル皇祖考丕承ナル皇考ノ  
作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而  
シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂  
ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト

爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁端  
ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノナリ豈

朕カ志ナラムヤ中華民國政府曩ニ帝國ノ  
眞意ヲ解セズ濫ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ  
攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシ

メ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更  
新スルアリ帝國ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相  
提攜スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ

米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尚未ク牆ニ相闘ク  
ヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ  
東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ  
東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス刺ハ與國  
ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ增強シテ  
我ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ラ  
ユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝  
國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲ

シテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシメムトシ隱  
忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナ  
ク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ッ  
テ益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ増大シ以テ我ヲ  
屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ  
東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水  
泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事  
既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衛ノ爲蹶然



起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ  
皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠  
勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍  
根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ  
帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名 御璽

年 月 日

各國務大臣副署